

# 設計課題 「小規模なりゾートホテル」

## I. 設計条件

この課題は、山間の旧街道沿いに宿場町として栄えていた古い町並みが残る地域において、名峰を望み緑豊かな自然に囲まれた湖畔に建つ「小規模なりゾートホテル」を計画するものである。

本施設は、既存の観光資源等を活用し、国内外からの旅行者が地域の生活、伝統産業、文化、芸能等の体験をとおして地域住民と交流を図りつつ、魅力的で活力のある地域を創りあげていくための滞在型観光の拠点となるものとする。

また、計画に当たっては、バリアフリーに配慮することに加えて、パッシブデザインを積極的に取り入れるとともに、斜面地における敷地の高低差を活かした建築物の立体(断面)構成とする。

### 1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、高低差、接道条件、周辺状況等は、別紙「敷地図兼下書用紙」のとおりである。
- 敷地の北側の平坦部、道路及び隣地には、高低差はない。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地の西側に、共用駐車場(本施設と大学セミナーハウスとの共用)がある。
- 敷地は、都市計画区域及び準都市計画区域以外の区域内にあり、景観保全のため建築物に関して次の制限がある。
  - 建蔽率の限度は60%、容積率の限度は200%である。
  - 建築物の高さの限度は、G.L.+12mとする(煙突、避雷針は含めない。)
  - 外壁の後退距離は、前面道路の境界線から5m以上とする。
  - 主要な屋根は、2/10以上の勾配屋根とする。
- 電気、ガス及び上下水道は完備している。
- 地盤は次のとおりであり、杭打ちの必要はない。
  - 敷地の北側の平坦部は、旧丘陵地を切土造成したものであり、良好な地盤である。
  - 敷地の法肩付近から南側部分は、表層から2.5mの深さまでは軟弱な表土であり、2.5m以深は北側の平坦部と同様に良好な地盤である。
- 気候は温暖であり、湖の氾濫及び積雪についての特別な配慮はしなくてよい。

### 2. 建築物

- 構造、階数等  
構造種別は自由とし、地下1階、地上2階建ての1棟の勾配屋根をもつ建築物とする。なお、この課題においては、階の取扱いは敷地のG.L.±0mの部分に直近の床の階を地上1階とし、避難階は地上1階とする。
- 床面積の合計  
床面積の合計は、2,400m<sup>2</sup>以上、2,800m<sup>2</sup>以下とする。  
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー及び屋外階段は、床面積に算入しないものとする。なお、ピロティ等を屋内的用途に供するもの(娯楽スペース、設備スペース、駐車場等)については、床面積に算入するものとする。
- 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に規定する特別特定建築物に該当し、「建築物移動等円滑化基準」を満たすものとする。
- 要求室  
下表の室は、全て計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
宿泊部門	客室A(計10室)	・全ての客室は、名峰や湖の眺望に配慮する。 ・洋室(定員2人)とし、ベッドを2台設ける。 ・浴室、洗面所及び便所を設ける。 ・バルコニーを設ける。 ・間口は、心々4m以上を確保する。	約35m <sup>2</sup> (計約350m <sup>2</sup> )
	客室B(計2室)	・車椅子利用者用客室とする。 ・便所、浴室又はシャワー室を設ける。 ・その他特記事項は、客室Aと共通とする。	約35m <sup>2</sup> (計約70m <sup>2</sup> )
	客室C(計2室)	・和洋室(定員4人)とし、ベッドを2台設ける。 ・和室(6畳)、ミニキッチン、洗面所、便所及び眺望に配慮した浴室をそれぞれ設ける。 ・バルコニーを設ける。	約70m <sup>2</sup> (計約140m <sup>2</sup> )
	リネン室	・客室を計画した階に設ける。	適宜
管理・共用部門	エントランスホール	・風除室を設ける。	適宜
	フロント	・受付カウンター、クロックを設ける。	適宜
	事務室	・執務スペース(6人分)を設ける。 ・フロントに隣接させ、直接出入りができるようにする。	適宜
	ラウンジ	・図書コーナー、テーブル、ソファ、ドリンクコーナー等を設ける。	約100m <sup>2</sup>
	レストラン	・名峰や湖の眺望に配慮する。 ・テーブル、椅子(40席程度)、レジカウンター等を設ける。 ・厨房、調理人の控室及び便所を設ける。	適宜
	地域ブランドショップ	・地域の伝統工芸品や特産品等を販売する。 ・陳列棚、レジカウンター等を設ける。	約50m <sup>2</sup>
	コンセプトルーム	・地域の魅力の発見や活性化につながると考えられる既存の観光資源等を任意に想定し、その想定した観光資源等を活用した室の使い方を自由に提案する。 ・使用目的や設い(内装、什器、設備機器等)の具体的な提案は、「II.3.計画の要点等(3)」に従い記述する。	適宜
	大浴場	・宿泊者専用とする。 ・男性用、女性用として、それぞれ下足箱、脱衣室(洗面コーナー・便所)、浴室(内風呂、露天風呂及びサウナ)を設ける。 ・男女共用の休憩コーナー(20m <sup>2</sup> 程度)を設ける。	計約260m <sup>2</sup>
	トレーニングルーム	・宿泊者専用とする。 ・トレーニングマシンのスペース(60m <sup>2</sup> 程度)及びストレッチ等が行えるスペース(20m <sup>2</sup> 程度)を設ける。 ・ドリンクコーナーを設ける。	約100m <sup>2</sup>
	従業員休憩室	・男性用及び女性用の更衣スペースを設ける。	適宜
多機能トイレ	・車椅子利用者、オストメイト等に配慮する。	適宜	
設備スペース	空調機械室	・外気を温湿度調整して居室に送風する。	適宜
	電気室	・地下1階に計画し、受変電設備及び非常用発電設備を設ける。 ・設備機器の搬出入及び更新に配慮する。	約70m <sup>2</sup>
	機械室	・地下1階に計画し、熱源設備、水槽類、ろ過機、ポンプ等を設ける。 ・設備機器の搬出入及び更新に配慮する。	約140m <sup>2</sup>
・便所、従業員等の出入口、倉庫及びゴミ保管庫については、適切に計画する。 ・その他必要と思われる室、什器等は、適宜計画する。			

### 3. 屋外施設等

- 「敷地内の駐車場」は、敷地の北側の平坦部に平面駐車とし、サービス用として2台分、車椅子利用者用として2台分(計4台分)のスペースを設ける。
- 「車回し(敷地内において自動車が転回できるものとし、直径12m以上の円が入るスペースとする。)」及び「車寄せ」を屋外に設け、車回しから前面道路を介することなく「共用駐車場」へもアプローチできるようにする。なお、大型バスの利用は考慮しないものとする。
- 建築物の地下1階から湖辺にアクセスできるようにする。
- 「リラクゼーションスペース(ファニチャーを含む。)」を、敷地の湖側の屋外(地下1階レベル)に50m<sup>2</sup>以上設け、名峰や湖の景色を楽しむことができるようにする。また、入浴後の休憩やトレーニング後のクールダウンに利用できるように、大浴場やトレーニングルームとの動線についても特に配慮する。

### 4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して適切に計画する。
  - 敷地の周辺環境及び景観に配慮して計画する。
  - 自然採光、自然通風及び自然エネルギー(太陽熱、井水、地中熱等)を利用したパッシブデザインを取り入れて計画する。
  - 建築物は、バリアフリー、セキュリティ等に配慮して計画する。
  - 各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とともに、避難動線を適切に計画する。
- 構造計画については、次の点に留意して適切に計画する。
  - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように適切に計画する。
  - 構造種別に応じた、架構形式及びスパン割りを適切に計画する。
  - 部材の断面寸法を適切に計画する。
  - 敷地の条件を考慮した地下1階の構造及び建築物全体の基礎構造を適切に計画する。
- 設備計画については、次の点に留意して適切に計画する。
  - 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を設ける。
  - 空調設備は、熱源機器からの冷温水の供給による「外気処理空調機+ファンコイルユニット方式」とする。また、給湯設備は、「熱源機器+貯湯槽」による中央式給湯方式とする。
  - エレベーターは、客用及びサービス用として、それぞれ1基以上を設ける。

## II. 要求図書

答案用紙I及び答案用紙IIの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

### 1. 要求図面(答案用紙Iに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。なお、各図面には、建築計画、構造計画及び設備計画において留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 地下1階平面図 ・ 配置図 1/200	① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(スパン割り及び床面積等の計算に必要な程度) ロ. 室名等(客室A、客室B及び客室Cの表示は下記ト、チ、リによる。) ハ. 要求室の床面積 ニ. 設備シャフト(パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS))、煙突の位置 ホ. 設備計画に応じた設備スペース ヘ. 断面図の切断位置 ト. 客室Aの室名(A1からA10及び各室の出入口) チ. 客室Bの室名(B1、B2及び各室の出入口) リ. 客室Cの室名(C1、C2及び各室の出入口) ヌ. 客室B(車椅子利用者用客室)の室内プラン(1室) ル. 客室Cの室内プラン(1室) ヲ. 要求室の特記事項に記載している室、スペース、什器等
(2) 1階平面図 ・ 配置図 1/200	② 地下1階平面図は敷地の南側の配置図を兼ねるものとし、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 敷地から湖辺への出入口 ハ. リラクゼーションスペース(面積、ファニチャー等) ニ. ドライエリア、法面、擁壁(ある場合のみ) ホ. 通路、植栽等
(3) 2階平面図 1/200	③ 1階平面図は敷地の北側の配置図を兼ねるものとし、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 車回し、車寄せ、車両の動線 ハ. 共用駐車場の出入口 ニ. 敷地内の駐車場(台数及び出入口を明示する。) ホ. ドライエリア、法面、擁壁(ある場合のみ) ヘ. 通路、植栽等 ト. 地下1階の屋根、ひさし等となる部分
(4) 断面図 1/200	④ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から2つの直通階段に至る歩行経路を図示し、その一に至る歩行距離及び重複区間の距離 ロ. 1階の屋根、ひさし等となる部分
(4) 断面図 1/200	① 切断位置は、南北方向とし、勾配屋根(勾配2/10以上)の形状がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 建築物の最高の高さ、階高、天井高、地下1階床高、1階床高、2階床高及び主要な室名を記入する。 ③ 基礎、地下外壁、壁、梁及びスラブの断面を図示する。 ④ 建築物が周囲の地面と接する位置を図示する。

### 2. 面積表(答案用紙Iに記入)

- 建築面積を記入し、その算定式も記入する。
- 各階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

### 3. 計画の要点等(答案用紙IIに記入)

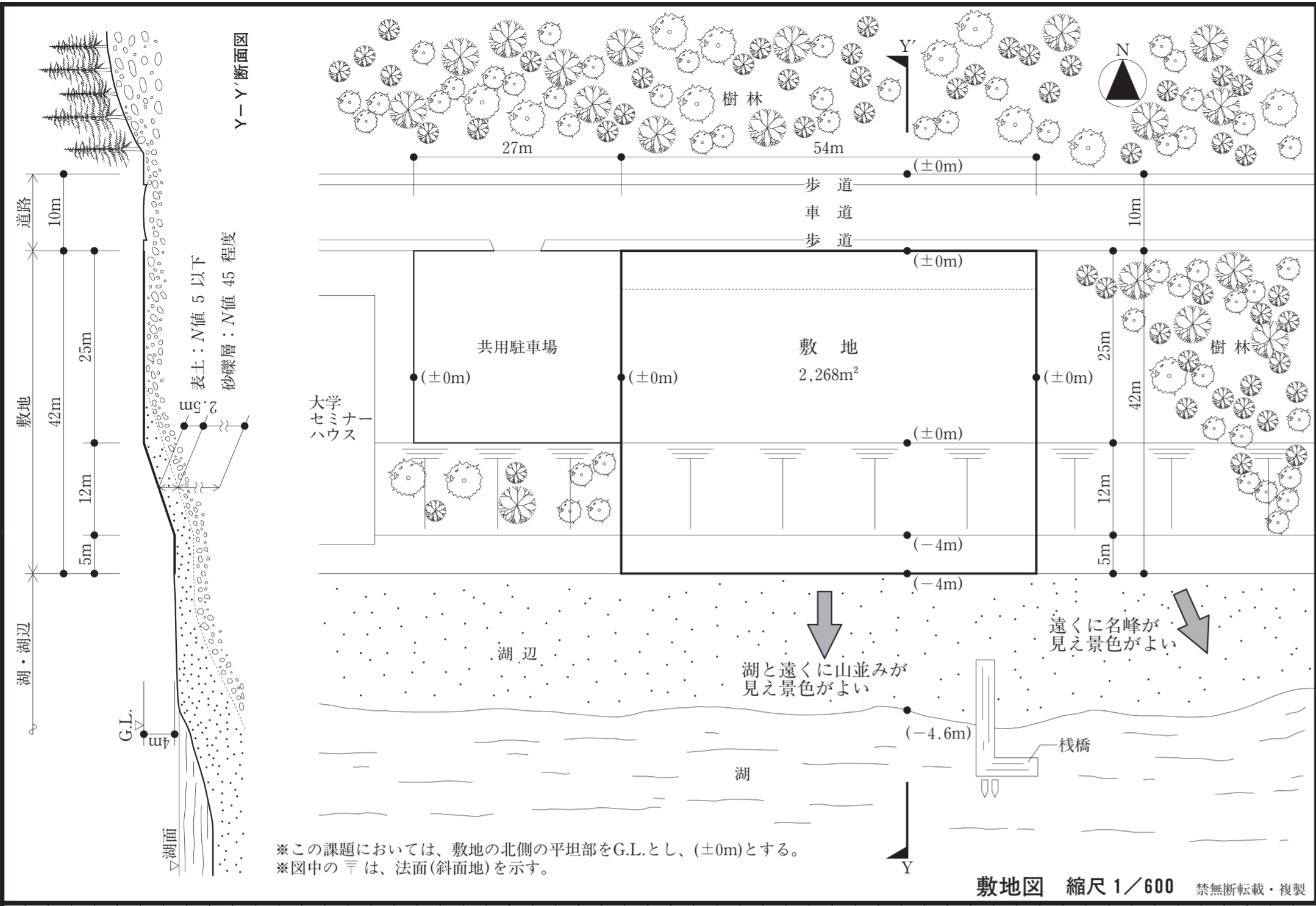
建築計画、構造計画及び設備計画について、次の(1)～(7)の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。

- 採用したパッシブデザインについて特に考慮したこと(3つ以上の手法)
- 客室B(車椅子利用者用客室)の室内計画において、バリアフリーに配慮した設計の考え方や設計のポイント(仕様、各種寸法等)について特に考慮したこと(3つ以上)
- コンセプトルームについて、設計条件や特記事項を踏まえ、既存の観光資源等を任意に想定し、「使用目的とその効果」及び「設い(内装、什器、設備機器等)」について提案すること
- 建築物全体の「構造種別・架構形式」、「スパン割り」及び「主要な部材の断面寸法」について特に考慮したこと
- 地盤条件(軟弱な地盤及び良好な地盤)及び敷地の形状(斜面地及び平坦部)を踏まえて計画した基礎構造について、「採用した基礎構造の形式」、「基礎底面のレベル」、「基礎梁の寸法」等について特に考慮したこと
- 斜面地における地下1階の構造躯体の計画に当たり、土圧・水圧対策等について特に考慮したこと
- 各階の居室に外気を送風するためのダクトルートの計画において、空調機械室及びダクトスペースの配置について特に考慮したこと

(注意)

この問題用紙については、試験終了まで試験室に在室した者に限り、持ち帰りを認めません(中途退出者については、持ち帰りを禁止します。)

試験場	受験番号	氏名



(注意) この敷地図兼下書用紙については、試験終了まで試験室に在室した者に限り、持ち帰りを認めません(中途退出者については、持ち帰りを禁止します。)

下書用紙 (この方眼用紙の1目盛は、5mmです。)

試験場	受験番号	氏名
-----	------	----